報告課題　歴史総合　　第Ⅲ部 第８章 冷戦と世界経済　　第５回

◎教科書『歴史総合 近代から現代へ　改訂版』p.179～213 を読んで、次の課題に取り組みましょう。

1.教科書の該当ページを参考に、各問いに答えなさい。教科書 p.179～213【知識・技能】解答番号 1 ～ 11

問題 1　以下の文の空欄に入る語句を答えなさい。教科書 p.179 解答番号 1

アメリカを中心とする資本主義陣営にとって、もっとも重要な集団防衛機構となったのは、アメリカが西ヨーロッパ諸国とともに 1949 年に設立した（　　）である。

問題 2　以下の文の空欄に入る語句を答えなさい。教科書 p.181 解答番号 2

スターリンが 1953 年に死去すると、後継者らは集団指導体制をしき、外交と内政の両面で緊張緩和をはかった。この一連の変化は「（　　）」と呼ばれて歓迎された。

問題3　以下の問いに答えなさい。教科書 p.184 解答番号 3

1967 年 ECSC・EEC・EURATOM の 3 機構が統一され、同じ 6 カ国が参加して誕生した組織を何というか。

問題4　以下の問いに答えなさい。教科書 p.186 解答番号 4

1961 年に、第 1 回非同盟諸国首脳会議が開催され核兵器禁止、植民地主義の打破などをめざして共同することが宣言された。こうしたアジア・アフリカ・ラテンアメリカなどの非同盟諸国を総称して何というか。

問題 5　以下の問いに答えなさい。教科書 p.190 解答番号 5

戦後、自民党と社会党の二大政党対立の時代が到来したが、自民党による長期保守政権が続くことになった。この保革対立のもとでの保守一党優位の体制を何というか。

問題 6　以下の文の空欄に入るものを、ア～エから選びなさい。教科書 p.195 解答番号 6

1956 年度の『経済白書』が「（　　）」と記したように、日本は経済成長の時期に入り、池田内閣は「国民所得倍増計画」を閣議決定した。

ア.もはや戦後ではない　イ. 保守革新　ウ.ゆりかごから墓場まで　エ.三種の神器

問題 7　以下の問いについて、適当なものをア～エから選びなさい。教科書 p.201 解答番号 7

米ソがにらみあいを続けるなか、ヨーロッパでは緊張緩和（デタント）をめざす動きが活発化した。この具体例にあたるできごとは何か。

ア.キューバ危機　イ.大躍進　ウ.東方外交　エ.スターリン批判

問題 8　以下の文の空欄に入るものを、ア～エから選びなさい。教科書 p.202～203 解答番号 8

「大躍進」での失敗をきっかけに、劉少奇・鄧小平が台頭した。しかし、毛沢東は巻き返しをはかり、1966 年に大規模な政治運動である（　　）を発動した。

ア.キューバ危機　イ.プロレタリア文化大革命　ウ.東方外交　エ.スターリン批判

問題 9　以下の問いについて、適当なものをア～エから選びなさい。教科書 p.203～204 解答番号 9

1960 年代から冷戦構造がゆらぎはじめたが、1960 年代におきたできごとではないものはどれか。

ア.スターリン批判　イ.プロレタリア文化大革命　ウ.公民権運動　エ.ベトナム戦争

問題 10　以下の文の空欄に入るものを、ア～エから選びなさい。教科書 p.206 解答番号 10

1970 年代に入ると、世界経済のあり方に大きな転換をもたらすできごととしてアメリカが（　　）を停止した。

ア.変動相場制　イ.公民権運動　ウ.日米安全保障条約　エ.金・ドル本位制

問題 11　以下の文の空欄に入るものを、ア～エから選びなさい。教科書 p.213 解答番号 11

1プラザ合意による急激な円高を避けるため、ドル買い・円売りの市場介入がおこなわれると、増加した通貨は株式と不動産に投資され、株価と地価が高騰し、いわゆる「（　　）」が発生した。

ア.四つの現代化　イ.ドル=ショック　ウ.大躍進　エ.バブル経済

2. 各文章を完成させなさい。教科書 p.180～202 解答番号 12～29

核開発について 教科書 p.180

核兵器が恐るべき威力をもつことは、広島と長崎に投下された原子爆弾（原爆）によって、世界中が認識していた。そのためアメリカは、ソ連に対しても、またほかの西側諸国に対しても、圧倒的な軍事上の優位を誇っていた。しかし、ソ連もまた 1949 年に、原爆の開発に成功した。（ 12 ）ことは、アメリカに強い衝撃を与えた。アメリカ・ソ連に続き、イギリスも 1952 年に原爆の開発に成功した。また同年には、アメリカが原爆よりもはるかに巨大な破壊力をもつ水素爆弾（水爆）を開発した。すると、翌年にはソ連も水爆実験の成功を発表した。両陣営はともに大量の核兵器を配置して相手を威嚇したが、これは世界中の人々が、つねに（ 13 ）ことを意味した。

核兵器開発競争のなかでは、大量の放射性降下物（「死の灰」）を生み出す核実験が頻繁に実施された。アメリカが太平洋の（ 14 ）環礁でおこなっていた核実験では、周辺の住民が「死の灰」によって被爆した。1954 年には日本のマグロ漁船第五福竜丸が、 14環礁での水爆実験により被爆して、乗員に死傷者が出た。この事件は、日本で核兵器に対する反対運動が高揚するきっかけとなった。核兵器開発競争の過熱に危機感をもったアメリカ大統領アイゼンハワーは、ソ連を牽制する目的もあり、国際連合総会で原子力の平和利用を提唱した。これによって、各国で原子力発電の開発が本格化することになった。

問題 1　空欄 12・13 に入るものを、ア～ウからそれぞれ選びなさい。【思考・判断・表現】解答番号 12～13

ア. 核兵器の独占が崩された　イ.核戦争勃発の脅威にさらされるという　ウ.核兵器の独占が続いた

問題 2　空欄 14 に入る語句を答えなさい。【知識・技能】解答番号 14

米ソ両大国と平和共存について 教科書 p.182

スターリンの死後、集団指導体制がとられていたソ連指導部内ではまもなく、共産党第一書記の（ 15 ）が台頭した。彼は資本主義諸国との平和共存が可能であるという立場を明確にし、1955 年にはアメリカ・ソ連・イギリス・フランスの指導者によるジュネーヴ 4 巨頭会談に出席した。会談の具体的な成果はなかったが、緊張緩和への期待が高まった。さらに 15 は、ソ連の改革をより前進させるために、1956 年にスターリンによる大量処刑などを暴露して批判した。また、コミンフォルムも解散した。こうしたスターリン批判の動きは、世界に衝撃を与えるとともに、（ 16 ）。1956 年 6 月には、ポーランドのポズナニで反ソ暴動がおこった。同年 10 月にはハンガリーで反ソ暴動が始まり、首相のナジもこれを支持してワルシャワ条約機構からの脱退を打ち出した。ソ連はこの動きを軍事介入によって鎮圧し、ナジを処刑した。

15 は 1959 年にソ連指導者としてはじめて訪米し、（ 17 ）。しかし、1960 年にアメリカの偵察機がソ連領内で撃墜される事件がおこり、米ソ関係は再び冷え込んだ。

また、1961 年には、西ベルリンへの市民の大量流出を阻止するために、東ドイツ政府が西ベルリンを囲むように「ベルリンの壁」を築いた。この「ベルリンの壁」は、以後、（ 18 ）。

問題 3　空欄 15 に入る語句を答えなさい。【知識・技能】解答番号 15

問題 4　空欄 16～18 に入るものを、ア～ウからそれぞれ選びなさい。【思考・判断・表現】解答番号 16～18

ア. 冷戦の象徴となった　イ.さらなる緊張緩和を模索した　ウ.東ヨーロッパに深刻な波紋を広げた

西ヨーロッパの経済復興について 教科書 p.185

西ドイツの復興はめざましく 1950 年代末からは「経済の奇跡」と呼ばれるほどの成果をあげた。西ドイツではキリスト教民主同盟を率いる（ 19 ）が長期政権を築き、国際社会への復帰と NATO 加盟を実現するとともに、（ 20 ）。その結果経済復興を成し遂げた。

一方で、伝統的にヨーロッパ大陸の動きから距離をとるイギリスは、超国家機構によって政策決定を拘束されることをきらい、こうした（ 21 ）。1960 年にイギリスは EEC に対抗して、EEC に加盟していない 7 カ国で、ヨーロッパ自由貿易連合（EFTA）を結成した。経済復興が進むにつれ、西ヨーロッパ諸国のあいだには、しだいにアメリカの主導権のもとから脱却しようという動きがみられるようになった。そうした動きには、政治・経済・軍事における自立に加えて、東側陣営との関係改善も含まれた。

最初に行動をおこしたのはフランスであった。フランスは北アフリカの植民地アルジェリアの独立運動に直面し、内乱の危機におちいった。この時、ド=ゴールが政権に復帰して、第五共和政を新たに成立させ、翌年には大統領に就任した。ド=ゴールは 1962 年にアルジェリアの独立を承認した。ド=ゴールは、（ 22 ）。彼のもとでフランスは、1960 年に原子爆弾の開発を成功させ、アメリカ・ソ連・イギリスにつづく核保有国となった。1966 年には NATO への軍事協力も拒否した。同年ド=ゴールはさらにモスクワを訪問し、ソ連との関係改善をはかった。フランスのこうした動きは、（ 23 ）。

問題 5 空欄19に入る語句を答えなさい。【知識・技能】解答番号 19

問題 6 空欄20～23に入るものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。【思考・判断・表現】解答番号20～23

ア. ヨーロッパの経済統合にも積極的に加わった　イ.ヨーロッパ統合の動きには加わらなかった

ウ.アメリカからヨーロッパの自立性を取り戻すことをめざした　エ.緊張緩和（デタント）の先ぶれとなった

核戦争の恐怖について 教科書 p.200～201

第二次世界大戦終結後、核兵器が実際の戦争に用いられることはなかった。しかし、（ 24 ）では、アメリカ合衆国とソ連が直接に核戦争を始めるのではないかという緊張が高まった。

キューバ革命後、カストロ率いる革命政権は、必ずしもアメリカ合衆国・ソ連のいずれかだけに接近しようとしたわけではなかった。しかし、農地改革による土地国有化などの施策が実行されると、アメリカはカストロ政権をソ連寄りとみなし、アイゼンハワー政権は 1961 年にキューバと断交した。カストロ政権がキューバ国内のアメリカ企業の国有化に着手すると、つづくケネディ政権は反革命勢力を支援してカストロ政権の打倒を企てたが、失敗した。

アメリカとの関係が悪化するなか、キューバはソ連に接近した。キューバはアメリカに対抗して核武装をおこなうことを望み、ソ連に支援を要請すると、フルシチョフは要請を受け入れて、1962 年に（ 25 ）を開始した。これは核兵器を搭載できるミサイルの射程距離にアメリカ本土が入ることを意味したため、ケネディは強く反発し、アメリカ海軍によりキューバを海上封鎖するとともに、そこに向かうソ連の船に立入り検査をおこなうと宣言した。一触即発の状態となったが、ぎりぎりのところで妥協が成立し、ソ連が（ 26 ）するかわりに、アメリカはキューバへの侵攻を断念することで合意した。この事件ののち、米ソ両首脳の意思疎通を改善するために、両者を直結する通信回線（ホットライン）が敷設された。

問題 7 空欄24に入る語句を答えなさい。【知識・技能】解答番号24

問題 8 空欄25・26に入るものを、ア～ウからそれぞれ選びなさい。【思考・判断・表現】解答番号25・26

ア.キューバにミサイル基地の建設　イ.キューバのミサイル基地を撤去　ウ.アメリカのミサイル基地を撤去

冷戦構造のゆらぎについて 教科書 p.202

1960 年代は、東側陣営と西側陣営のどちらにとっても、大きな変化の時代となった。東側陣営の内部では、（ 27 ）が激しさを増した。これは社会主義の路線をめぐる対立であったが、ユーラシア大陸においてどちらが主導権を握るかをめぐる、2 つの大国の争いでもあった。さらに、チェコスロヴァキアでは改革運動が盛り上がったが、ソ連はこれを弾圧した。

西側陣営では、こうした激しい内部対立はおこらなかった。しかし、アメリカ合衆国がベトナム戦争に深入りしていくにつれて、圧倒的な軍事力で他国に介入するアメリカに対して、世界各地で反戦運動がおこった。またアメリカ国内では、ベトナム反戦運動は（ 28 ）とも結びついた。

1960 年代の、とくに後半には、世界各地で（ 29 ）と呼ばれる世代が成人を迎えた。彼らは、第二次世界大戦終結後の数年間、出生率が著しく増加した時期に生まれ、第二次世界大戦後の世界で育った。 29 世代は、古い伝統やしきたりに反発して声を上げることで、世界の各地で様々な変革運動の重要な担い手となった。

問題 9　空欄 27・28 に入るものを、ア～イからそれぞれ選びなさい。【思考・判断・表現】解答番号 27・28

ア.ソ連と中国の対立　イ.人種差別への抗議

問題 10　空欄 29 に入る語句を答えなさい。【知識・技能】解答番号 29

3. 資料の読み取りに関する各問いに答えなさい。それぞれの問いで指示された資料は教科書をみながら解答すること。【思考・判断・表現】解答番号 30～34

問題 1　p.179 地図「冷戦の時代に結ばれた世界の諸同盟とおもな紛争地点」に関連する文として誤っているものを、ア～エから選びなさい。解答番号 30

ア.パン=アメリカ会議が開催され、南北アメリカ大陸の諸国による米州機構（OAS）が結成された。
イ.東南アジアで共産主義の拡大を阻止するための東南アジア条約機構（SEATO）を結成された。
ウ.バグダード条約機構は、1959 年にイランが脱退したあと、中央条約機構（CENTO）に改称した。
エ.ソ連は、東ヨーロッパ諸国とともにワルシャワ条約機構（東ヨーロッパ相互援助条約）を結成した。

問題 2　p.184 地図「ヨーロッパ統合の歩み」に関連する文として誤っているものを、ア～エから選びなさい。

解答番号 31

ア.フランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクを構成国として ECSC は発足した。
イ.それぞれの国家がもつ主権の一部を国家の枠組みをこえた超国家機構に譲渡した点で ECSC は画期的な機構であった。
ウ.たびかさなる戦争を経験してきたフランスとドイツの両国は 2 度と戦争をしない仕組みをつくり出そうとした。
エ.EC はヨーロッパ統合の出発点となり、ヨーロッパ経済共同体やヨーロッパ原子力共同体が設立された。

問題 3　p.187 地図「アフリカ諸国の独立」について、1960 年に 17 カ国が独立した背景を述べた文として適当なものを、ア～エから選びなさい。解答番号 32

ア.イギリスの植民地支配であった国が多く、イギリスは福祉政策によって国内の財政収支が悪化したことで植民地からの独立を認めていった。
イ.フランスの植民地支配であったアルジェリアで独立運動がおき、フランスの影響力が低下していった。
ウ.OAU が結成されアフリカ諸国が連帯意識を深めることで列強の植民地支配から独立する国家が増大した。
エ.輸出作物の供給地や鉱物資源の開発に歯止めがかかり、列強が設定した人為的な国境線が解消されたことで、多くの国家が独立を果たした。

問題 4　p.196 グラフ「産業別就業者割合の推移」に関連する文として適当なものを、ア～エから選びなさい。

解答番号 33

ア.第 1 次・第 2 次産業の割合が減少し、第 3 次産業の割合が増加していることから、兼業農家が増えていくことや、食生活の洋風化が進むと考えられる。
イ.第 2 次・第 3 次産業の割合が増加する産業の高度化にともなって、所得・消費の水準が上昇していき、食料の輸出依存が進み、食料自給率が低下すると考えられる。
ウ.第 1 次産業の割合が減少し、第 2 次・第 3 次産業の割合が増加していることから、専業農家の減少や日本の食料自給率が低下すると考えられる。
エ.第 1 次産業の割合が減少していくことから、地方に人口が分散していき、教育面で高等教育の大衆化が進んでいくと考えられる。

問題 5 p.211 表「各国の自動車生産台数の推移」、写真「ジャパン=バッシング」に関連する文として誤っているものを、ア～エから選びなさい。解答番号34

ア.日本の貿易黒字は大幅に拡大し、欧米諸国とのあいだに貿易摩擦がおこり、とくに自動車をめぐる日米貿易摩擦は深刻な問題となった。

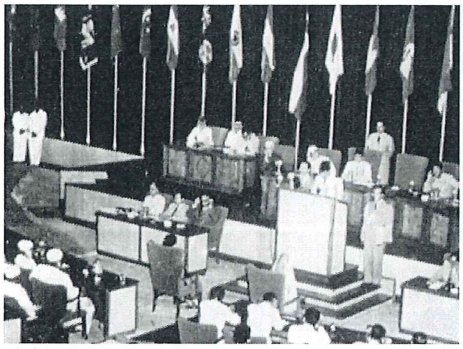
イ.石油危機を受けて開発された省エネ型の日本車がアメリカへ輸出され、1970 年代後半にはアメリカの生産台数を抜いた。

ウ.アメリカの自動車産業従業員の解雇があいついだことからジャパン=バッシングがおこった。

エ.2000 年から日本にかわって中国が台頭し 2005 年には日本の生産台数を上まわった。

4. 次の資料に関する各問いに答えなさい。教科書 p.186～199【思考・判断・表現】解答番号35～37

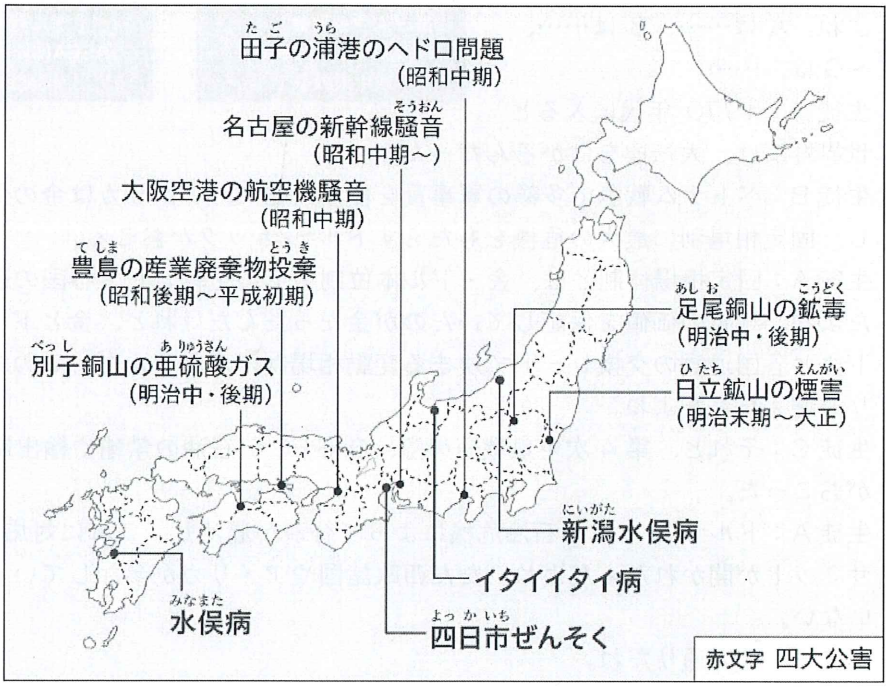
〔資料 1〕教科書 p.186



〔資料 2〕教科書 p.192


国会乱入、ついに犠牲者
全学連、警官隊と激突
警官隊と激突し
女子東大生死ぬ

〔資料 3〕教科書 p.199



問題 1 〔資料 1〕について述べた文 A・B の正誤を判断し、適当なものをア～エから選びなさい。解答番号35

A. アジア=アフリカ会議はインドネシアのバンドンで開かれ、非同盟諸国首脳会議はベオグラードで開かれた。

B. 中華人民共和国の周恩来首相とインドのネルー首相が会談して平和十原則が発表され、それが会議でも打ち出された。

ア. A－正 B－正　イ. A－正 B－誤　ウ. A－誤 B－正　エ. A－誤 B－誤

問題 2 〔資料 2〕について述べた文 A・B の正誤を判断し、適当なものをア～エから選びなさい。解答番号36

A. 1960 年 1 月岸首相はワシントンで日米相互協力及び安全保障条約に調印し、5 月に強行採決した。

B. 革新勢力や全学連の学生、多数の一般市民が参加したデモ隊が連日国会を取り巻き警官隊と衝突した。

ア. A－正 B－正　イ. A－正 B－誤　ウ. A－誤 B－正　エ. A－誤 B－誤

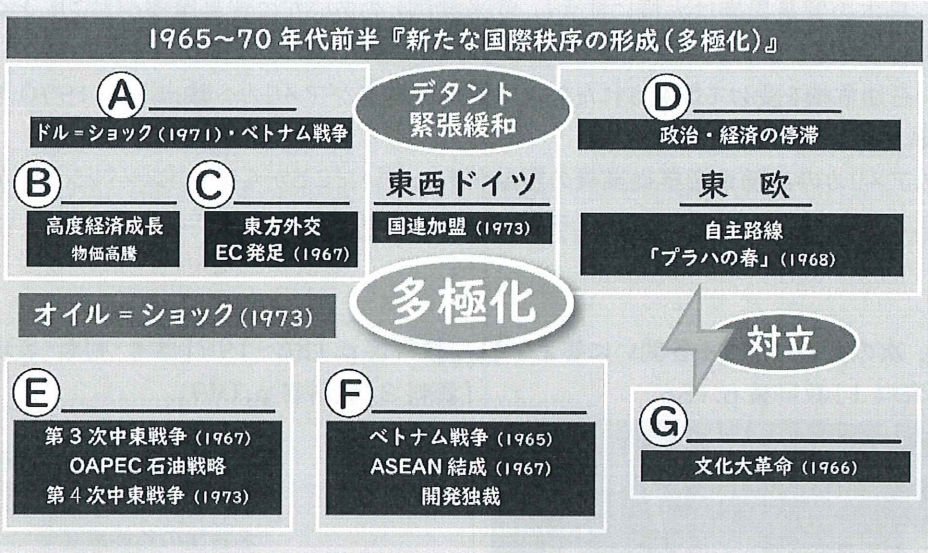
問題 3 〔資料 3〕について述べた文 A・B の正誤を判断し、適当なものをア～エから選びなさい。解答番号37

A. 政府の公害対策が進展したことで公害対策基本法が制定され、1971 年には環境庁が発足した。

B. 水俣病・四日市ぜんそく・イタイイタイ病・新潟水俣病の被害をめぐる裁判で被害者側が勝訴した。

ア. A－正 B－正　イ. A－正 B－誤　ウ. A－誤 B－正　エ. A－誤 B－誤

5. 次の資料や会話文をもとに、以下の各問いに答えなさい。教科書 p.206～208 解答番号 38～45



生徒 A：キューバ危機以降の世界情勢について、「デタント」と「多極化」に注目しながら、まとめてみたよ。

生徒 B：このまとめ資料をもとに A～G にそれぞれの国や地域でおこったできごとの内容を確認していこう。

生徒 C：それぞれの内容を簡単に説明していけばいいんだよね。A は……、B は……、～G は、……。

生徒 A：1970 年代に入ると世界経済は、大転換をはかるんだったね。

生徒 B：ベトナム戦争で多額の軍事費を使った結果、アメリカは金の保有量が減り、経済力が大きく低下し、固定相場制に最大の危機をもたらすドル=ショックがおこる。

生徒 A：固定相場体制とは、金・ドル本位制でドルを軸として各国の通貨を金と結びつけていた体制だったよね。通貨の価値を保証していたのが金だったんだけれど、金とドルの交換を停止することになると、ドルと各国通貨の交換レートで決まる変動相場制に変わるんだ。この結果、ブレトン・ウッズ体制は終わりを迎えたんだよね。

生徒 C：それと、第４次中東戦争の際、OAPEC が石油の禁輸や輸出制限などの石油戦略により石油危機がおこった。

生徒 A：ドル=ショックと石油危機によって経済が混乱し、これに対応するためフランスの大統領が提唱しサミットが開かれたんだよね。ただ西欧諸国やアメリカが参加しているけど、ソ連や東欧諸国は参加していない。

生徒 B：その通りだね。

問題 1　まとめ図の A～G に入る内容をそれぞれ選びなさい。【知識・技能】

解答番号 A 38、B 39、C 40、D 41、E 42、F 43、G 44

ア. 市場経済の導入や言論の自由化など自由な社会主義をめざし、指導者ドプチェクを支持した改革運動が盛り上がったが、それを軍事介入して弾圧した。

イ. 急進的な社会主義政策を見直す現実路線が台頭したが、多くの若者たちを動員して権力闘争に利用し、資本主義に傾斜する人々を弾圧した。

ウ. 既存の価値観にとらわれず自由な社会を望んだ若者たちが中心となって、反戦運動や差別に反対する運動が高揚した。

エ. アメリカ主導からの自立をめざしたド=ゴールによる独自路線や、ブラント首相による諸外国との関係改善をはかる外交政策が展開された。

オ. 重化学工業を中心とした大量生産や大量消費によって、鉄鋼、石油化学、自動車、家電などが発展し、エネルギー源は石炭から石油へと転換した。

カ. 反共の姿勢を明確にすることで技術提供や資金援助を受けることができ、基本的人権を犠牲にしつつ経済発展を優先させる政策がとられた。

キ. 「反アラブ」諸国には石油の輸出を禁止し、「非アラブ」諸国に対しては石油の輸出を制限し、輸入に依存していた諸国に大きな打撃を与えた。

問題 2 まとめ図や会話文をふまえ、1965~70 年代の流れについて誤っているものを選びなさい。ただし、どれも正しい場合は「オ」を選びなさい。【思考・判断・表現】解答番号 45

ア.資本主義経済は、アメリカの一極集中から西ヨーロッパや日本など多極化の流れへと変わっていった。P.212

イ.石油危機は、省エネルギー化や効率化への転換をうながし、社会や生活のあり方に変化をもたらした。P.206

ウ.アメリカはベトナム戦争で、ソ連は「プラハの春」で国際的威信が低下した。アメリカはソ連との関係改善の足がかりとして中国と接近したことで、緊張緩和が本格化した。P.206

エ.経済を優先させる政策により輸出指向型工業化が進展し、東南アジアでは地域協力機構として ASEAN が成立した。P.209

オ.どれも正しい。

問題 3 ドル=ショックが起きた背景や原因について、以下の指定語句を用いて 50 字以内で説明しなさい。【思考・判断・表現】解答番号 46 P.206

〔指定語句〕 ベトナム戦争 金本位制